



一般社団法人 日本LD学会

# 会 報 第 84 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F  
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

## 主な記事

### <特集>

- ・設立 20 周年記念式典について
  - ・公開シンポジウム（青森）について
- ### <TOPICS>
- ・「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果について

### <連続講座>

- ・高等教育における発達障害学生の支援
- ### <お知らせ>
- ・2013 年度の予定について



## 場面緘黙と発達障害

明治学院大学

松村茂治

筆者は、かつて「場面緘黙」という問題に興味を持ち、比較的長い期間に渡って臨床活動を行ってきた経験があります。場面緘黙は、家庭では親やきょうだいとは話ができるのに、幼稚園や学校に行くと、先生や友だちとはおろか、家庭でなら普通に話のできる相手とも、言葉を交わさなくなってしまうという現われ方をする問題です。

当時、わが国に導入され始めた行動療法に興味を持っていた私は、緘黙の問題に対する行動療法としてはフェーディング法という技法のあることを知り、この技法を中心にして介入を組み立ててきました。今でも、緘黙に対しては、この方法は有力なものと考えています。

ところで、行動主義的な介入では、問題の解決にあたっては、環境を調整することに力点が置かれます。そうしたやり方に魅力と有望さを感じていた私は、知らず知らずのうちに、問題解決のためには環境を変えることが必要である、いや、環境を変えなければ問題は解決しないという位に、今から思うと、ずいぶんと偏狭な考え方に陥っていたように思います。そうした偏狭さに嫌気が差

し、私の所から去って行ったクライアントもいたように思います。

今から 20 年以上も前に、かなり重篤な緘黙症状を呈して相談に見えていた幼児がいました。最近になって、その子がアスペルガー障害の診断を受けたという話を聞き、緘黙という問題に対して抱いていたいくつかの疑問が氷解して行くように感じています。20 年前といえば、今ほど発達障害について語られることはなく、緘黙とアスペルガー障害を関連づけて考えることもありませんでした。これら 2 つを短絡的に結び付けるつもりはありませんが（その関係について検討する価値はあると思います）、緘黙の問題を発達障害という観点から捉えていたら、もう少し違ったアプローチが出来たのではないかと、少なくとも環境を変え、ことに抵抗を感じる子どもや保護者のいること、あるいは人との関係の持ち方に独特な感覚を持っている人のいることに気づき、もう少し優しい接し方ができたのではないかとこの頃です。